2023年9月3日　主日礼拝　聖霊降臨節 第15主日 聖餐礼拝

説教題:「沖に漕(こ)ぎ出してみなさい」聖書箇所:ルカによる福音書5章1-11節

説教者:秀島牧師

招詞:讃美歌93-1-49　交読詩編:第46編1-12節

讃美歌 : 83(聖なるかな)／288(恵みにかがやき)／289(みどりもふかき)／
782(みどりもふかき)／27(父・子・聖霊の)

「今週の聖句」〔話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」と答えた。〕
(ルカ伝5章4-5節)

「牧師室の窓」「千日紅 一年草の 花なれど 夏にも秋にも 輝き咲ける」
「一粒の 種より育つ 千日紅 小さき花の 凛々しき姿」

(1)皆様おはようございます。今年の夏も9月を迎えて秋が始まろうとしています。近年、温暖化が進んでおり、春夏秋冬(なる・なつ・あき・ふゆ)の区別が曖昧になってきています。併し、私たちが使っている生活の暦(カレンダー)に教会の暦を組み合わせますと、私たちの生活にアクセントが付いて参ります。日曜日ごとに教会の礼拝に参加し、聖書の御言葉を聞き、讃美歌を歌うことは、皆様方の人生に確実なメリハリとなり、身体的にも精神的にも豊かなプラス要因となりますでしょう。これは決して自画自賛ではありません。何故ならば、1つには人間は社会的な存在であり、孤立して生きることは出来ないからです。2つには人間は神の慈愛に包まれて生きることが許されているからであります。

(2)本日は大きな湖ゲネサレト湖で魚を捕る漁師として生計を立てていたシモン・ペトロの物語です。ペトロがイエス・キリストの導きによって、新たな人生の一歩を踏み出した場面を皆様と共に現場に立ち会い、実況中継に参加して参りたいと思います。…まず思い出してください。イエス様は地元のナザレで初めて神の言葉を人々に語り始められました。次に、ナザレから少し離れたゲネサレト湖に面したカファルナウムの町に来られました。安息日には町の会堂でイエス様は教え始められました。会堂と言うのはユダヤ教の教えである聖書、私たちが旧約聖書と呼んでいる聖書の内容や日常生活の決まり事を教師が教え、人々が学ぶ場所、建物です。安息日は金曜日の日没の時刻から土曜日の日没の時刻までです。イエス様は人々の病気を癒し直されましたので、人々から注目されるようになりました。ある安息日の午後にシモン・ペトロの家を訪ね、高熱で苦しんでいたペトロの義理の母親を回復されました。4章39節には「熱は去り、彼女はすぐに起き上がって一同をもてなした」と書かれています。ほかの福音書(マタイ伝・マルコ伝・ヨハネ伝福音書)にはペテロは突然にイエス様と出会ったように書かれていますが、このルカ伝福音書にはペトロがイエス様の弟子になるには事前の段階があったことが記されています。従って、今日の聖書箇所に出てくる状況の展開にはそれなりの前奏曲が流れているのです。特に8節に書かれているペトロの言葉〔(5:8)…シモン・ペト

ロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。〕や 10 節に書かれているイエス様の言葉〔(5:10)…すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」〕は突飛な言葉、場違いの言葉ではないことを皆様は理解されるでしょう。

(3)1 節に書かれている「ゲネサレト湖」は旧約聖書ではキネレト湖と呼ばれています。それは湖の形が竪琴(キンノール)に似ているからとのことのようです。高い山から見たのでしょうか。現代であればドローンを飛ばして地形の映像を見て確認することが出来ますが、古代人の知恵と言いますか、探求心を垣間見ることが出来ますね。新約聖書ではガリラヤ湖、ティベリアス湖などとも呼ばれています。湖の周囲が約 53km です。東京の山手線 1 周が約 35km ですから、山手線 1 周の約 1.5 倍、湖の面積は日本の琵琶湖の約 4 分の 1 ですからかなり大きい湖です。今日の聖書箇所の 4 節にはイエス様は〔(5:4)…沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われた〕と書かれていますことの意味が良く分かります。日本語の聖書では「沖に漕ぎ出して」の「沖に」と翻訳されていますが、ギリシア語の原文では、「深い所へ」と書かれています。つまり、魚が取れる沖の水深の深い所へ小舟を動かすようにとイエス様は命じているのです。ついでながら、このガリラヤ湖の水面は、地中海の水面よりは 2 百数十mも低いのです。従って、地中海から吹いてくる風が陸地の高い山や丘に遮られ谷底となるガリラヤ湖に降ると天候が急速に変化して嵐になってしまいます。ルカ伝 8 章にも書かれているガリラヤ湖での突然の嵐が発生したというのはこの地形が原因であると説明することが出来るのかも知れません。テレビ放送で気象情報を解説されている気象予報士の方に問い合わせをして聞いてみるのも良いかもしれませんね。

(4)ペトロは魚を捕る漁師であり、自分の舟を持っているので、単なる漁業労働者ではなく魚を捕ることについての高い技術力を持った技能労働者と推測されます。また捕獲した魚を販売して生計を立てているでしょうから、計算力やお金の管理能力があったと推測されます。つまり一言で言えば、ペトロは判断力を備えている人物であると考えられるのです。今日の聖書箇所の場面展開でペトロが話す言葉の中身は彼なりにしっかりと考えた上で話していることと思われます。例えば、5 節の「わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」、8 節の「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」、そして、極め付けは 11 節の「彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った」、特に「すべてを捨ててイエスに従った」とは単に衝動的に行動したのではありません。先程の「沖に漕ぎ出して」と言う言葉の本来の意味は「深い所に漕ぎ出して」と申し上げました。「深い所」とは、「人生の未知なる処」へと理解することが出来ます。魚取りについては素人であるイエス様の言葉に従って、ペトロは魚取りについては高い技能を持っているにも拘らず、「人生の未知なる処」へと決心して行動したことによって、新たな人生経験をしたのです。そのことにより、生活の重要な糧であり、この世での財産を「すべてを捨ててイエスに従った」のです。

(5) 扨て、1 節には「神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た」と書かれています。そのために、3 節にあるように、イエス様はペトロの舟に乗り「岸から少し漕ぎ出」してもらい、「腰を下ろして舟から

群衆に教え」られたのです。イエス様は多くの人々の顔が見える様に、話し声が届くようにと程良い間隔、距離感をもってお話をされたのです。併し、ペトロは何処にいたでしょうか。ペトロはイエス様と同じ舟の中に居りました。イエス様の声を間近で聞き、手振り身振りの振動を同じ舟の中で感じていたのです。思い起こせば、ペトロはイエス様が安息日に町の中にある会堂での話を会堂の片隅で聞いていたことでしょう。ペトロの義理の母親の高熱をイエス様が直されたことを家の中で見ていたことでしょう。つまり、イエス様の外見についてはどんな人物であるかをある程度理解していたと思われます。しかし、いまこの舟の中で、イエス様が間近におられその話声が発せられて聞こえてくるのです。…ここで余談ですが、私の学生時代に、学校の授業で「統計学」という授業がありました。数学系の授業ですが、経済を学ぶにも、多くの分野を学ぶにも不可欠の知識です。この統計学は必修科目ですのでこの授業の単位を取らなければ卒業が出来ないのです。ところがこの授業の教室の床は 2 段になっていました。1 段目の床の机の椅子に座る学生は教壇におられる先生とほぼ同じ高さであり、先生の声がよく聞こえるのです。一方、2 段目の床のある机の椅子に座る学生には先生の声が幾分小さく聞こえるのです。この 2 段目の場所は「嘆きの丘」(エルサレム神殿の崩れた壁を嘆きの壁と言います。その言葉に語呂合わせして、嘆きの丘)と言われていました。単位を取得、合格しないと卒業が出来なくなる授業科目が幾つかあり、私は今でも寝ている時に卒業できないとの恐怖感で目が覚める時があります。でも、考えてみれば、その先生のおかげで学業がある程度身につき、学校を卒業して 50 年間を経過することが可能になったと深く感謝しています。…雑談に深入りして失礼しました。ペトロがイエス様のお声を身近で聞いたことが、職業技能者としてのプライドを捨ててでも、ガリラヤ湖の「沖に漕ぎ出」す(**深みに漕ぎ出す**)**決心**がついたのだと推測されます。

(6)5 節には〔(5:5)シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」と答えた。〕と書かれています。ペトロたちは前日の夜から今日の明け方まで夜を徹して魚取りの仕事をしていた、しかし「何もとれ」なかったのです。懸命に、最善を尽くして努力をしたのでしょう。残念であったというよりは悔しさが表れています。皆さんはこれに似たようなことを経験されたことが或いはありますでしょう。堪え切れない悔しさで心が潰されそうになってしまいます。私も長い職業人生活で幾度かありました。20 代の前半では私が書いた文章が上司の鬼のような赤ペンでことごとく直されました。20 代の後半では、取引先の新規開拓営業を任されましたが、3 か月間、4 ヵ月間もの間、実績が上がりませんでした。体重が減り、精神的な苦痛が増してきます。そのような時に励ましてくれるのは教会での礼拝に出席することでした。御言葉を聞き、説教に耳を傾け、讃美歌を歌うことで自分自身を見つめ直すことになります。加えて、ある取引先の専務さんが、ひょんなことからカトリックの信者であることが分かり、仕事を越えての信頼関係が生まれており、その人が属しているカトリック教会の礼拝(ミサ)に出席しました。心に得るものがありました。私は勇気をもらい、心の余裕ができて仕事を見直すことが出来ました。日本の社会では信仰なり、聖書の記事なりを馬鹿々々しいものと看做す考え方がありますが、そんなことはありません。信仰とは奥深いものであり、人間の心に慰めを与えてくれます。キリスト教ばかりではありません、仏教の信仰にも私は敬意を持って接しています。今日の聖書の5節にある「しかし、お言葉ですから、網を降

ろしてみましょう」これは主の御言葉に耳を傾けて、信頼して行動する、人生を歩むことに他なりません。ある時は自分のこれまでの生きざまとは異なることになります。「しかし、お言葉ですから」、それが私たちに新しい人生を与えてくれるのです。

(7)最後に 10 節のイエス様がペトロに与えた言葉を見てみましょう。〔(5:10)…恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。〕この中の「人間をとる漁師」とは、ギリシア語の原文では「人間を生かしたままで捕らえる人」です。原文では漁師と言う言葉は使われてはいません。この言葉は「人間を生きたままで危険から救う人」という意味になります。だいぶ分かり易くなりますね。…最後にもう一つ加えます。今日の聖書箇所の物語の続きが、何とヨハネによる福音書の最終の第 21 章にも出てきます。復活されたイエス様がティベリアス湖のそばに現れるのです。ティベリアス湖と言うのはガリラヤ湖のことです。復活されたイエス・キリストをペトロは初めにはイエス様であると気が付かずにいましたが、魚が沢山取れたので気が付いたのです。ペトロの人生が主によって生かされていたことが分かります。私たちは今日のこの聖書物語によって、人生の「沖に漕ぎ出して」、主によって生かされる人生を歩みたいと願っています。

・・・お祈りします。